

90年代の日本経済と金融問題

佐藤明義*

1 90年代日本経済の動きと特徴

一時的な回復期(95, 96年)を除き, 90年代を通じて日本経済の長期低迷が続き, 最近再び景気の後退傾向が強まっている。日本経済は70年代, 80年代に比べ, 一段と低成長時代に入った。

90年代の日本経済の特徴をあげると, 物価低下傾向が強まり名目経済成長率が実質ベースを下回っていること, 民間需要が低迷し回復力が鈍っていること, 土地, 株式など資産の価格が低下し資産デフレに底入れの兆しが見られないことなどが指摘される。

90年代の経済長期低迷は, 景気循環によるというよりも, 資産デフレ, 円高, 市場経済化の拡大と価格競争の進展といった内外経済環境の変化と, 企業の対応がうみだした構造的な要因によるところが大きい。すなわち環境変化に対しコスト削減を目的とした企業の合理化の動きが, 雇用・賃金制度の変革に発展して個人消費低迷を招いているほか, 企業の設備投資など民間需要の低迷を招いている。

景気低迷の原因を景気循環にもとめ, 需要喚起を目的としてとられ続けてきた従来の財政金融政策は, 経済回復に無力であり, 超低金利の持続と財政悪化を残した。

2 企業のバランスシート毀損と不良債権問題

90年代の地価, 株価の急落は, 国内総生産の2倍強に相当する国富の喪失を招いた(1,260兆円)。土地価格の低下は企業の正味資産の実質的な減少を招き, 経営上のリスクの緩衝材, 金融上の担保として土地保有に依存してきた日本企業の活力を奪った。また外部資金の調達により土地保有を図った企業では, 貸借対照表が実質

* 広島経済大学経済学部教授

的に毀損しており、過剰債務が企業の大きな負担となっている。

過剰債務は本来企業の利益で吸収していくほかないが、内外の経済環境の構造変化は、名目成長率の鈍化、売上高、利益増加の鈍化要因として働き、企業の債務削減を容易に許さない点が深刻である。

企業のバランスシート毀損は、銀行の支援により90年代前半は表面化することが少なかったが、90年代後半には銀行も体力減退により支えることが困難になり、不良債権問題、金融危機に発展した。

銀行の不良債権の実質的な処理とは、企業のバランスシート調整に見切りをつけることを意味しており、企業倒産、失業者の増加といった痛みに耐える覚悟が必要である。

3 今後の課題

日本経済の回復には、企業の体質改善を図ることが必要である。経済政策としては、需要喚起策よりは企業の体質改善と活性化を図る規制緩和、税制政策等の実施が求められる。また土地本位の直接金融中心の金融システムを見直し、資本市場の育成を図ることも必要である。

日本経済に起きた80年代後半以降のバブル発生、バブル崩壊と90年代の資産デフレによる経済、金融危機を資本主義市場経済が内包する不安定性に帰することができるのであれば、米国型市場主義経済を追求することの是非も再検討しなければならない。